

人間植物関係学特論（二）（2単位）

担当者氏名 山口裕文

◆学習・教育目標

植物と人間との関係の歴史的発展過程と現代に生かすべき植物との関わりが持つ福祉機能の知識とその利用のための理論を体系的に講述する。観賞植物、景観植物、雑草などの自然景観植物、食用植物、香料香辛料植物、儀礼植物などを具体的な事例の理解をとおして人々の生活に密接に関わる多様な植物の持つ癒しと安らぎ、健康促進や生活の質の向上の重要性を認識する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

人間植物関係学 園芸学 民族植物学 生物文化多様性

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	人間植物関係性の発展と歴史	人間と植物の関係性の発展過程、競争・共生・共存関係の歴史	人間と植物の関係性の発展過程を整理し、植物要素ごとに福祉機能、癒しや安らぎの機能について、問題提起しながら検証する。特に準備すべき事項はないが、当該の講義のテーマと内容に沿った学術の現状について推薦図書等を通して予習しておくこと。
2	自然景観・人工景観による福祉	森林セラピーとあぜ道のもつ癒し、草遊び	
3	観賞・庭園・景観植物による福祉	花、みどり、ガーデニング	
4	ナルコティクス植物による福祉	嗜み料、飲料、陶酔	
5	香源植物による福祉	香料香辛料植物、東西香り文化	
6	民家庭園とホームガーデンにおける福祉	緑陰樹、落葉、果物の季節	
7	儀礼・宗教植物による福祉	仏花、祝花、供花の多様性	
8	植物活用の地域性	癒し植物の原産地での発展	
9	植物活用の場の設計	住環境における生活文化活用の計画	
10	植物活用の評価原理	植物活用技法の評価手法と原理	
11	植物活用の発展	現代社会における発展事例	
12	植物活用の地域複合	癒し植物の地域的集中、花文化センター	
13	植物活用の文化複合	植物活用要素の体系と高度化	
14	植物活用の連携	自然活用や動物活用との連携	
15	総合討論	総括	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

教科書は特に指定しない。参考書：、資料を紹介する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

副読本：バイオセラピー学入門（講談社）、栽培植物の自然史Ⅰ、Ⅱ、園芸福祉入門等

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

毎回提出するレポートにより評価する（100点）

◆その他受講上の注意事項